

福島県内遺跡分布調査報告 26

2019年9月

福島県教育委員会

福島県内遺跡分布調査報告26

序 文

福島県教育委員会では、大規模開発事業等による埋蔵文化財包蔵地への影響を避けるため、事前に事業予定地に係る分布調査及び試掘・確認調査を実施し、関係機関と調整、協議を行い、埋蔵文化財の保護に努めております。平成30年度は、3市1町の区域内で計画された4事業に係る試掘・確認調査及び4町の区域内で計画された1事業に係る分布調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託して実施しました。

浜通り地方では、いわき市において主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設事業に関連した2箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地において、試掘・確認調査を実施しました。中通り地方では、伊達市において一般国道115号相馬福島道路建設事業に関連した4箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地について試掘・確認調査、郡山市において阿武隈川上流河川改修事業に関連した1箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地について試掘・確認調査を実施しました。会津地方では、会津坂下町、柳津町、三島町、金山町において只見川河川整備事業計画地周辺の分布調査を実施しました。

今回の調査では、まず、36,000m²の試掘・確認調査により、周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所、埋蔵文化財包蔵推定地1箇所の合計5,100m²について遺跡の範囲や内容が明らかになりました。次に、40,000m²の分布調査により、事業計画地周辺において周知の埋蔵文化財包蔵地9箇所及び埋蔵文化財包蔵推定地11箇所を確認することができました。

この報告書が、埋蔵文化財の保護や地域の歴史を解明するための基礎資料となり、広く県民の皆様に御活用いただければ幸いです。

結びに、この調査に御理解と御協力をいただいた当該市町村教育委員会や公益財団法人福島県文化振興財団をはじめ関係機関及び関係各位に対し深く感謝の意を表します。

令和元年9月

福島県教育委員会

教育長 鈴木 淳一

緒　　言

- 1 本書は、平成30年度に実施した一般国道115号相馬福島道路、主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)、国道349号改良工事(下関工区)、阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)の各建設予定地内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地(試掘調査により遺跡の存否を確認する地点)の試掘・確認調査、並びに只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)の分布調査の報告書である。
- 2 この調査は、国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。
- 3 福島県教育委員会は、調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託した。
- 4 福島県教育委員会は、公益財団法人福島県文化振興財団が実施した調査に基づき、埋蔵文化財の取扱いを決定した。
- 5 福島県教育委員会は、下記の職員を調査監督員として配置した。
専門文化財主査 阿部 智彦
- 6 公益財団法人福島県文化振興財団は、下記の職員を配置して調査を実施した。
専門文化財主査 菅原 桂夫 文化財主査 渡邊 春喜
- 7 本書は、福島県教育庁文化財課職員及び公益財団法人福島県文化振興財団(遺跡調査部県内遺跡分布調査担当)の職員が執筆した。
- 8 調査にあたっては、地元地権者・地権者会・行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。
いわき市教育委員会 伊達市教育委員会 郡山市教育委員会 矢祭町教育委員会
会津坂下町教育委員会 柳津町教育委員会 三島町教育委員会 金山町教育委員会
福島県土木部(いわき建設事務所・県中建設事務所・会津若松建設事務所)
国土交通省東北地方整備局(福島河川国道事務所・郡山国道事務所)
- 9 事業名称の長いものは、一部省略した表現を用いている。
- 10 本書に使用した遺跡の調査記録は、福島県教育委員会が保管している。

用 例

1 本書における用例は次のとおりである。

- (1) 周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/25,000の地形図(磐城泉・保原・福島北部・田母神)及び1/50,000の地形図(只見・宮下・喜多方・野沢)を、事業の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/200,000の地形図(福島・白河・新潟)を複製したものを使用している。
- (2) トレンチ配置図は、各事業主体作製の縮尺1/1,000・1/2,000・1/2,500地形図を基とした。

2 本書第2章における周知の埋蔵文化財包蔵地・埋蔵文化財包蔵推定地及びトレンチ配置図の用例は次のとおりである。

- (1) : 現状保存範囲
- (2) : 未試掘範囲
- (3) : 工事などの実施にあたっては慎重工事の措置をとる必要がある範囲
- (4) : 埋蔵文化財包蔵推定地で遺構・遺物が確認されず、周知の埋蔵文化財包蔵地として取り扱わないと判断された範囲
- (5) : 遺構・遺物が確認できたトレンチ
- (6) : 遺構・遺物が確認できなかったトレンチ
- (7) : 工事予定範囲
- (8) : 周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲
- (9) : 分布調査による埋蔵文化財包蔵推定地の範囲

3 埋蔵文化財包蔵推定地の名称は便宜上アルファベットの「B」と算用数字を組合せて表記するが、試掘調査によって周知の埋蔵文化財であることが確定すれば所在地の字名や地名をとり、新たに遺跡名称を付している。

4 各遺跡の呼び方は、『日本地名大辞典7福島県』(角川書店)収録の「小字一覧」にならったが、通称が定着しているときは、それに従った。

5 遺構図の用例は次のとおりである。

- (1) 平面図の縮尺は、基本的に各挿図版の右下(スケール右側)に記した。
- (2) 検出した遺構は、網点で表示した。
- (3) 土色の判定に際しては、『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)を用いた。

6 本書で使用した略号は、次のとおりである。

T : トレンチ	L : 遺構外堆積土	ℓ : 遺構内堆積土
S K : 土 坑	S D : 溝 跡	P : 小 穴
D T : 伊 達 市	I WK : いわき市	A B : 会津坂下町
Y Z : 柳 津 町	M S : 三 島 町	K Y : 金 山 町

目 次

第1章 県内遺跡分布調査の概要	1
第2章 試掘・確認調査	4
第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地	4
1 伊達市の遺跡	
D T - B 29 [田向遺跡] (5) 中室内遺跡 (6)	
D T - B 32 (10) 宮本遺跡 (8)	
第2節 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地	11
1 いわき市の遺跡	
泉太平遺跡 (12) I WK - B 1 (14)	
第3節 国道349号改良工事(下関工区)建設予定地	14
1 矢祭町の遺跡	
下町遺跡 (15) 下古宿遺跡 (15)	
第4節 阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)予定地	16
1 郡山市の遺跡	
徳定A・B遺跡 (17)	
第3章 分布調査	19
第1節 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)建設予定地	19
第4章 総 括	27
1 一般国道115号相馬福島道路建設予定地	
2 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地	
3 国道349号改良工事(下関工区)建設予定地	
4 阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)建設予定地	
報告書抄録	31

挿図・表・写真目次

[挿 図]

第 1 章

図 1	県内道路分布調査位置図	1
図 2	一般国道 115 号相馬福島道路位置図	4
図 3	伊達市の遺跡	5

第 2 章

図 4	DT-B 29 [田向遺跡] 棲出遺構・土層柱状図	6
図 5	DT-B 29 [田向遺跡] レンチ配置図	7
図 6	中室内遺跡棲出遺構・土層柱状図	8
図 7	中室内遺跡トレンチ配置図	9
図 8	宮本道路トレンチ配置図	10
図 9	DT-B 32 レンチ配置図	11
図 10	主要地方道いわき上三坂線 (小名浜道路) 位置図	12
図 11	いわき市の遺跡	12
図 12	泉大平遺跡トレンチ配置図	13
図 13	IWK-B 1 レンチ配置図	14
図 14	矢祭町の遺跡	15
図 15	下町遺跡トレンチ配置図	16

[表]

第 1 章

表 1	一般国道 115 号相馬福島道路 試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
表 2	主要地方道いわき上三坂小野線 (小名浜道路) 試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
表 3	国道 349 号改良工事 (下関地区) 試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
表 4	阿武隈川上流河川改修事業 (御代田地区) 試掘・確認調査遺跡一覧	2・3

第 2 章

表 5	DT-B 29 [田向遺跡] レンチ一覧	6
表 6	中室内遺跡トレンチ一覧	7

[写 真]

第 2 章

1	DT-B 29 [田向遺跡] 6 T 溝跡断面 (南から)	5
2	中室内遺跡 4 T 溝跡横出状況 (南西から)	8
3	第 3 章 洲走遺跡・AB-B 1 全景 (南から)	20
4	片門跡・AB-B 2 全景 (北東から)	20
5	片門跡全景 (南から)	20
6	舟渡城跡・AB-B 3 全景 (南から)	20
7	舟渡城跡全景 (南西から)	24
8	下中沢遺跡・YZ-B 1 全景 (西から)	24
9	麻生館跡・YZ-B 2 全景 (南西から)	24
10	麻生館跡全景 (南から)	24
11	YZ-B 2 近景 (南から)	25

図 16	下古宿遺跡トレンチ配置図	16
図 17	郡山市の遺跡	17
図 18	德定 A・B 遺跡トレンチ配置図	18
第 3 章		
図 19	只見川河川整備事業 (片門地区～滝沢地区) 位置図	19
図 20	只見川河川整備事業 (片門地区～滝沢地区) 予定工区と遺跡・遺跡推定地 (1)	21
図 21	只見川河川整備事業 (片門地区～滝沢地区) 予定工区と遺跡・遺跡推定地 (2)	22
図 22	只見川河川整備事業 (片門地区～滝沢地区) 予定工区と遺跡・遺跡推定地 (3)	22
図 23	只見川河川整備事業 (片門地区～滝沢地区) 予定工区と遺跡・遺跡推定地 (4)	23
図 24	只見川河川整備事業 (片門地区～滝沢地区) 予定工区と遺跡・遺跡推定地 (5)	24
第 4 章		
図 25	田向遺跡の範囲	30

第 3 章

表 7	只見川河川整備事業 (片門地区～滝沢地区) 関連遺跡一覧	19・20
第 4 章		
表 8	相馬福島道路 (雪山～福島) 関連試掘・確認調査 対象遺跡成果一覧 (伊達市・桑折町)	28
表 9	主要地方道いわき上三坂小野線 (小名浜道路) 関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧 (いわき市)	29
表 10	国道 349 号改良工事 (下関地区) 関連試掘・確認調査 対象遺跡成果一覧 (矢祭町)	29
表 11	阿武隈川上流河川改修事業 (御代田地区) 関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧 (越山市)	30
表 12	埋蔵文化財包蔵地 (変更) 一覧	30

12	小和瀬遺跡・M5-B 1 全景 (北から)	25
13	KY-B 1 全景 (南西から)	25
14	KY-B 1 全景 (北から)	25
15	KY-B 2 全景 (南から)	25
16	KY-B 2 全景 (北東から)	25
17	高根沢跡跡・KY-B 3 全景 (南西から)	25
18	高根沢跡跡案内板：西部地区 (南から)	25
19	KY-B 3 全景 (南から)	26
20	高根沢跡跡・KY-B 4 全景 (南西から)	26
21	高根沢跡跡・KY-B 4 全景 (西から)	26
22	丸堀跡部遺跡 (西から)	26
23	丸堀跡東部遺跡 (南から)	26
24	丸堀跡：山内氏勝墓碑 (北から)	26
25	丸堀跡案内板 (北から)	26
26	KY-B 5 全景 (西から)	26

第1章 県内遺跡分布調査の概要

平成30年度は、一般国道115号相馬福島道路、主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)、国道349号改良工事(下関工区)及び阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)の4事業(3市1町)についての試掘・確認調査並びに只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)の1事業(4町)の分布調査を公益財團法人福島県文化振興財團に委託して実施した。

[一般国道115号相馬福島道路]

一般国道115号相馬福島道路は、相馬西道路、阿武隈東道路、阿武隈東～阿武隈、靈山道路、靈山～福島の5区間に分かれて建設が進められている。このうち、阿武隈東道路は平成21年度、阿武隈東～阿武隈は平成26年度、相馬西道路は平成27年度、靈山道路は平成28年度までに試掘・確認調査が終了している。

平成30年度は、靈山～福島の伊達市における計画路線内の4箇所、計18,400m²の周地の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地を対象に試掘・確認調査を実施した。

その結果、D T - B 29[田向遺跡]、中室内遺跡で遺構・遺物を確認し、D T - B 29[田向遺跡]では4,100m²、中室内遺跡では1,000m²を保存範囲とした。

なお、これをもって、一般国道115号相馬福島道路の試掘・確認調査はすべて終了した。

[主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)]

いわき市における計画路線内の2箇所、計9,000m²の周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地を対象に試掘・確認調査を実施した。保存対象箇所は確認できなかった。

[国道349号改良工事(下関工区)]

矢祭町における計画路線内の2箇所、計6,600m²の埋蔵文化財包蔵推定地を対象に確認調査を実施した。保存対象箇所は確認できなかった。

[阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)]

郡山市における計画地内の1箇所、計2,000m²の周知の埋蔵文化財包蔵地を対象に確認調査を実施した。保存対象箇所は確認できなかった。

[分布調査]

只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)の会津坂下町～金山町における計画地内の全長40km、面積40haを対象に分布調査を実施した。その結果、周知の埋蔵文化財包蔵地9箇所、新規の埋蔵文化財包蔵推定地11箇所を確認した。ただし、ほとんどの地区では具体的な工事範囲が未確定であり、今後の補足調査が必要であることを明記しておく。



図1 県内遺跡分布調査位置図

表2-1 一般国道115号相馬福島道路試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内面積(㎡)	平成30年度調査			
					対象面積(㎡)	トレンチ本数	掘削面積(㎡)	割合
D T - B 29 [田向遺跡]	伊達市保原町上保原字田向	自然堤防	H30.5.23～5.24	23,200	5,450	12	235.0	4.3%
中室内遺跡	伊達市保原町上保原字中室内	自然堤防	H30.5.28	15,200	1,250	5	104.5	8.3%
宮本遺跡	伊達市伏黒字宮本	自然堤防	H30.5.29～5.30	16,100	6,400	8	125.0	2.0%
D T - B 32	伊達市伏黒字館ノ内	自然堤防	H30.5.31～6.5	7,100	5,300	13	183.5	3.1%
相馬福島道路(伊達市)				616.00	18400	38	648.0	35%

表2-1 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内面積(㎡)	平成30年度調査			
					対象面積(㎡)	トレンチ本数	掘削面積(㎡)	割合
泉大平遺跡	いわき市泉町字大平・一町田 添野町長沢	丘陵	H30.7.2～7.3	3,200	3,200	5	84.5	26%
I WK - B 1	いわき市添野町頭平	丘陵	H30.7.4～7.6	5,800	5,800	9	116.0	20%
小名浜道路(いわき市)				9,000	9,000	14	2005	22%

表3-1 国道349号改良工事(下関工区)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内面積(㎡)	平成30年度調査			
					対象面積(㎡)	トレンチ本数	掘削面積(㎡)	割合
下町遺跡	矢祭町大字下関河内字下町	丘陵	H30.7.23～7.24	5,900	3,600	5	75.0	21%
下古宿遺跡	矢祭町大字下関河内字下古宿	丘陵	H30.7.25～7.26	3,000	3,000	5	75.0	25%
国道349号改良工事(矢祭町)				8,900	6,600	10	150.0	23%

表4-1 阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内面積(㎡)	平成30年度調査			
					対象面積(㎡)	トレンチ本数	掘削面積(㎡)	割合
應定A・B遺跡	郡山市田村町應定字太柳	自然堤防	H30.9.4～9.6	14,300	2,000	5	78.0	1.6%
阿武隈川右岸築堤(郡山市)	合計(4)			14,300	2,000	5	78.0	1.6%
平成30年度試掘・確認調査遺跡 総合計(1)+(2)+(3)+(4)				93,800	36,000	67	1,076.5	3.0%

〔注〕：表中のトレンチ内の%は、今年度の試掘・確認調査対象面積に対するトレンチ掘削面積の割合を示す。

表1-2 一般国道115号相馬福島道路試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	平成30年度調査結果		取扱い	保存面積 (m ²)	未試掘 面積 (m ²)	備考
	遺構	遺物				
D T - B 29 [田向遺跡]	溝跡・土坑・小穴	なし	一部保存	4,100	0	試掘調査終了
中室内遺跡	溝跡・土坑・小穴	なし	一部保存	1,000	0	確認調査終了
宮本遺跡	なし	なし	慎重工事	0	0	確認調査終了
D T - B 32	なし	なし	除外	0	0	試掘調査終了
相馬福島道路(伊達市)	合計(1)			5,100	0	

表2-2 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	平成30年度調査結果		取扱い	保存面積 (m²)	未試掘 面積 (m²)	備考
遺構	遺物					

泉大平遺跡	なし	なし	慎重工事	0	0	確認調査終了
I WK - B 1	なし	なし	除外	0	0	試掘調査終了
小名浜道路(いわき市)	合計(2)			0	0	

表3-2 国道349号改良工事(下関工区)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	平成30年度調査結果		取扱い	保存面積 (m²)	未試掘 面積 (m²)	備考
遺構	遺物					

下町遺跡	なし	なし	慎重工事	0	0	確認調査終了
下古宿遺跡	なし	なし	慎重工事	0	0	確認調査終了
国道349号改良工事(矢祭町)	合計(3)			0	0	

表4-2 阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	平成30年度調査結果		取扱い	保存面積 (m²)	未試掘 面積 (m²)	備考
遺構	遺物					

御代田A・B遺跡	なし	なし	慎重工事	0	7,400	
阿武隈川右岸築堤(郡山市)	合計(4)			0	7,400	
平成30年度試掘・確認調査遺跡 総合計(1)+(2)+(3)+(4)				5,100	7,400	

第2章 試掘・確認調査

第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路は、常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ全長45kmの高規格道路（自動車専用道路）として計画され、平成23年度から東日本大震災からの早期復興を図る復興支援道路として緊急に整備されることとなった。全5区間のうち、相馬西道路と阿武隈東道路の2区間は国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所が、阿武隈東～阿武隈と霧山道路と霧山～福島の3区間は国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所が事業を進めている。

このうち、阿武隈東道路は平成29年3月26日より、阿武隈東～阿武隈は平成30年3月10日より供用が開始された。本事業の埋蔵文化財に関する調査は、平成14年度の阿武隈東道路での分布調査により開始した（『福島県内遺跡分布調査報告9』）。その後、同区間では平成18年度より試掘・確認調査を実施し（『福島県内遺跡分布調査報告14』）、平成21年度には同区間に係る本発掘調査はすべて終了した。相馬西道路の区間に係る分布調査は平成23年度に実施し、平成25年度より試掘・確認調査を開始し、平成27年度には同区間に係る試掘・確認調査及び本発掘調査はすべて終了した（『福島県内遺跡分布調査報告19・21・23』）。阿武隈東～阿武隈の区間に係る分布調査は平成24年度に実施し、同年度より試掘・確認調査を開始し、平成26年度には同区間に係る試掘・確認調査及び本発掘調査はすべて終了した（『福島県内遺跡分布調査報告20・21』）。霧山道路の区間に係る発掘調査は平成18・21年度に実施し、平成24年度より試掘・確認調査を開始し、平成28年度には同区間に係る試掘・確認調査及び本発掘調査はすべて終了した（『福島県内遺跡分布調査報

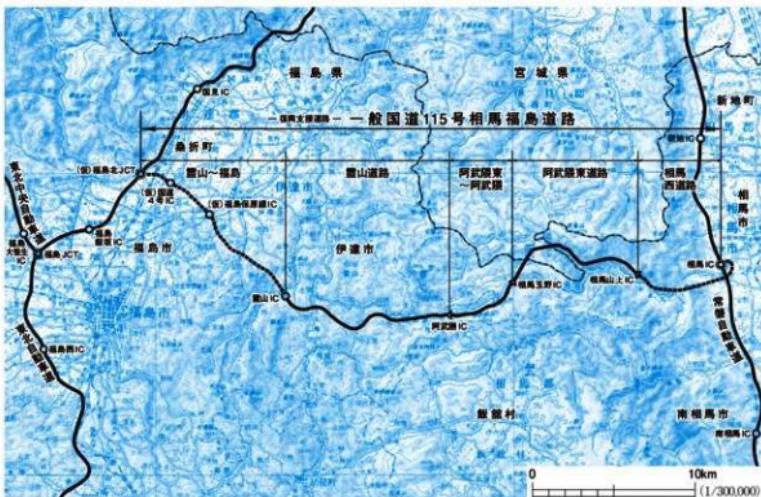


図2 一般国道115号相馬福島道路位置図



図3 伊達市の遺跡

告14・17・20・24】。雲山～福島の区間に係る分布調査は平成24年度に実施し、平成26年度より試掘・確認調査を開始した(『福島県内遺跡分布調査報告21・22・24】)。平成30年度は、伊達市に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地・埋蔵文化財包蔵推定地、計4箇所で試掘・確認調査を実施した。

1 伊達市の遺跡

DT-B29[田向遺跡] (第3次調査)

所 在 地 伊達市保原町上保原字田向

調査対象面積 5,450m²

保 存 面 積 4,100m²

検 出 遺 構 溝跡、土坑、小穴

出 土 遺 物 なし

[概 要] DT-B29[田向遺跡]は、平成24年度の分布調査において、新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21】)。その後、平成28年度に工区内の3,900m²、平成29年度に工区内の1,300m²を対象に試掘調査を実施した(『福島県内遺跡分布調査報告24・25】)。その結果、平成29年度の試掘調査では中世の遺構が発見され、一部を田向遺跡として新規登録した(『福島県内遺跡分布調査報告25】)。阿武隈川の旧河道に沿って形成された自然堤防上に立地しており、現況は果樹園・畑地・宅地である。本年度の試掘調査は、工区内の5,450m²を対象に、トレンチ12本を設定して行った。



1 DT-B29[田向遺跡] 6T溝跡断面(南から)

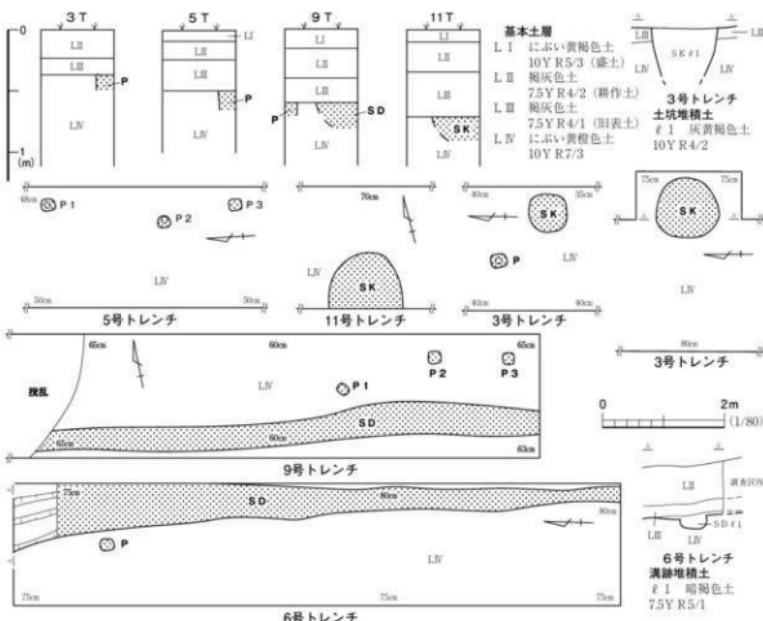


図4 DT-B29 [田向遺跡] 検出遺構・土層柱状図

[遺構・遺物] 3Tでは土坑2基、小穴1基、5

Tでは小穴3基、6Tでは溝跡1条、小穴1基、9Tでは溝跡1条、小穴3基、11Tでは土坑1基を検出した。遺物は出土していない。

このうち小穴は、径25~30cmの隅丸方形を呈し、掘形と柱痕跡の区別できるものを含む。このことから、掘立柱建物跡の柱穴の可能性がある。

[まとめ] 試掘調査の結果、遺構を確認した3・5・6・9・11Tを中心とした範囲(4,100m²)については、保存の必要がある(変更増補範囲については図25参照)。それ以外の箇所については保存対象外とし、周知の埋蔵文化財包蔵地として扱わない。これにより、田向遺跡から続く保存範囲の拡張が確定したことになる。また、今回の調査をもって、DT-B29の建設予定地内のすべての試掘調査は終了した。

中室内遺跡（第3次調査）

所 在 地 伊達市保原町上保原字中室内

調査対象面積 1,250m²

検出遺構 溝跡、土坑、小穴

表5 DT-B29 [田向遺跡] トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認深度(深さ)	遺構内掘込み	
3T	土坑・小穴	40cm	○	
5T	小穴	50cm	×	
6T	溝跡・小穴	80cm	○	
9T	溝跡・小穴	65cm	×	
11T	土坑	70cm		

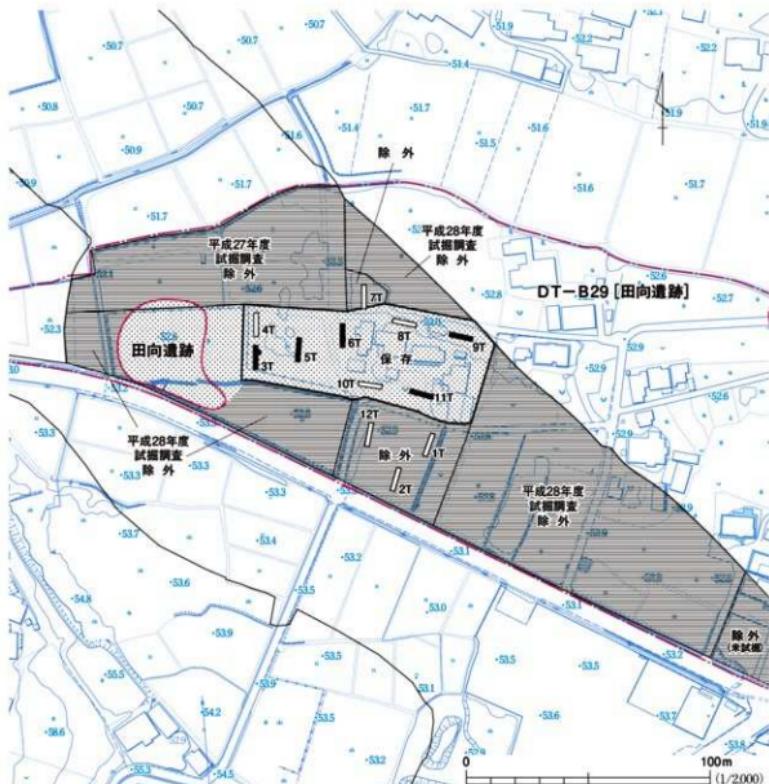


図5 DT-B29トレーナー【田向遺跡】配置図

[概 要] 中室内遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、平成24年度の分布調査において、包蔵地範囲の拡がることが確認され、台帳の変更を行った(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。その後、平成28年度に工区内の4,800m²を、平成29年度に工区内の9,100m²を対象に確認調査を実施した(『福島県内遺跡分布調査報告24・25』)。その結果、平成29年度の確認調査では、古墳時代と中世の遺構・遺物が発見され、保存範囲(4,500m²)が確定した(『福島県内遺跡分布調査報告25』)。阿武隈川の旧河道に沿って形成された自然堤防上に立地し、現況は果樹園・水田・宅地である。

本年度の確認調査は、工区内北西部の1,250m²を対象に、トレーナー5本を設定して行った。

[遺構・遺物] 3 Tでは土坑2基、溝跡2条、小穴2基、4 Tでは溝跡3条、5 Tでは土坑1基を検出した。

表6 中室内遺跡トレーナー一覧

トレーナー番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
3 T	土坑・溝跡・小穴	65cm	○	
4 T	溝跡	75cm	○	
5 T	土坑	60cm	×	

遺物は出土していない。

このうち3Tと4Tの幅が他より広く、重複関係の古い溝跡は、堆積土の色調や含有物の特徴が類似している。

したがって、同時存在した可能性がある。

【ま と め】 確認調査の結果、遺構を確認した3~5Tを中心とした範囲(1,000m²)については、保存の必要がある。この場所は、周囲の水田部より一段標高が高く、平成29年度調査区の保存範囲(4,500m²)と類似した微地形を呈している。

それ以外の箇所については保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、今回の調査をもって、建設予定地内の中室内遺跡のすべての確認調査は終了した。



2 中室内遺跡 4T溝跡検出状況（南西から）

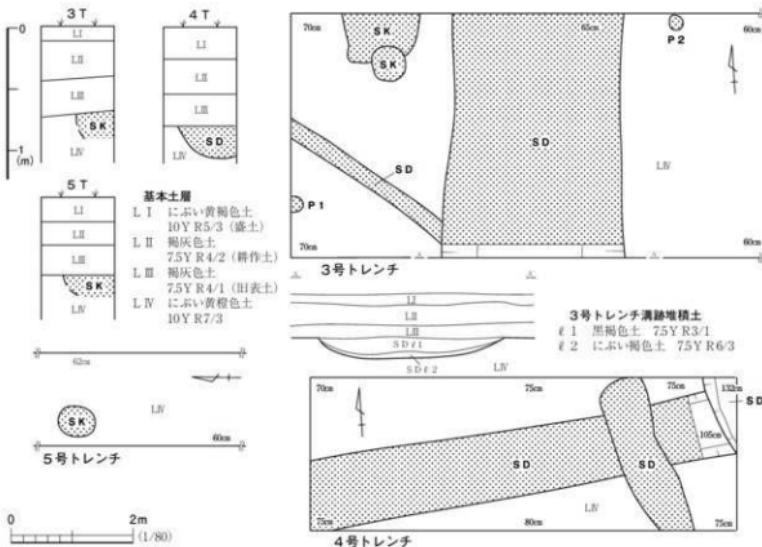


図6 中室内遺跡検出遺構・土層柱状図

宮本遺跡（第2次調査）

所 在 地 伊達市伏黒字宮本

調査対象面積 6,400m²

検出遺構 なし

保 存 面 積 0 m²

出 土 遺 物 なし

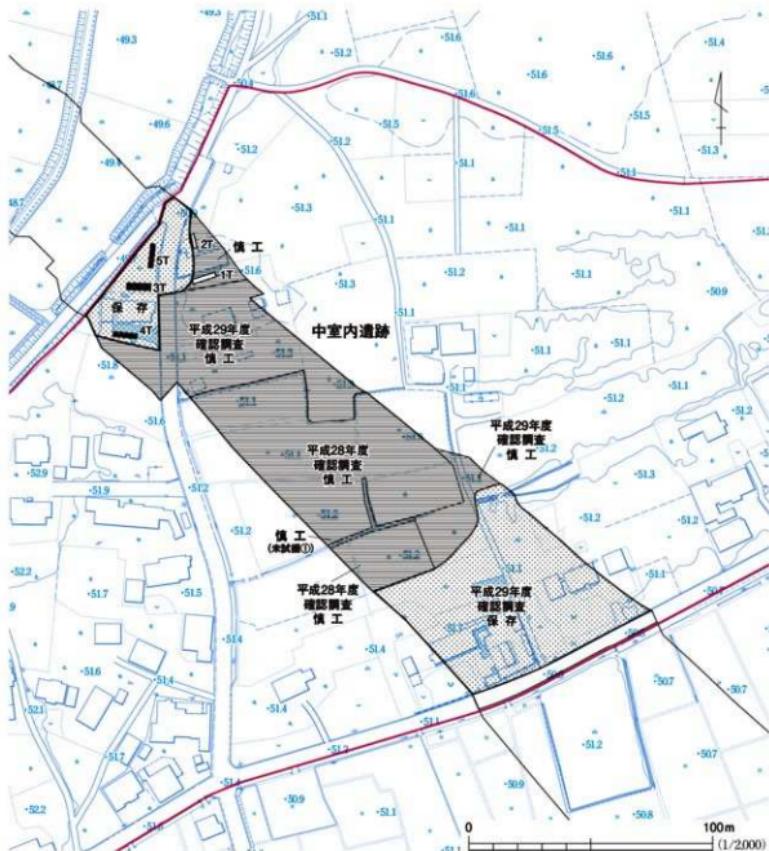


図7 中室内遺跡トレンチ配慮図

[概 要] 宮本遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、平成24年度の分布調査において、包蔵地の範囲が拡がることが確認され、台帳の変更を行った（『福島県内遺跡分布調査報告21』）。その後、平成28年度に工区内の7,200m²を対象に確認調査を実施した結果、保存対象範囲は確認できなかった（『福島県内遺跡分布調査報告24』）。

阿武隈川の旧河道に沿って形成された自然堤防上に立地し、現況は果樹園・畠・宅地である。

本年度の確認調査は、工区内の6,400m²を対象に、トレンチ8本を設定して行った。

[ま と め] 確認調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、本年度の調査範囲は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

また、今回の調査をもって、宮本遺跡のすべての試掘調査は終了した。

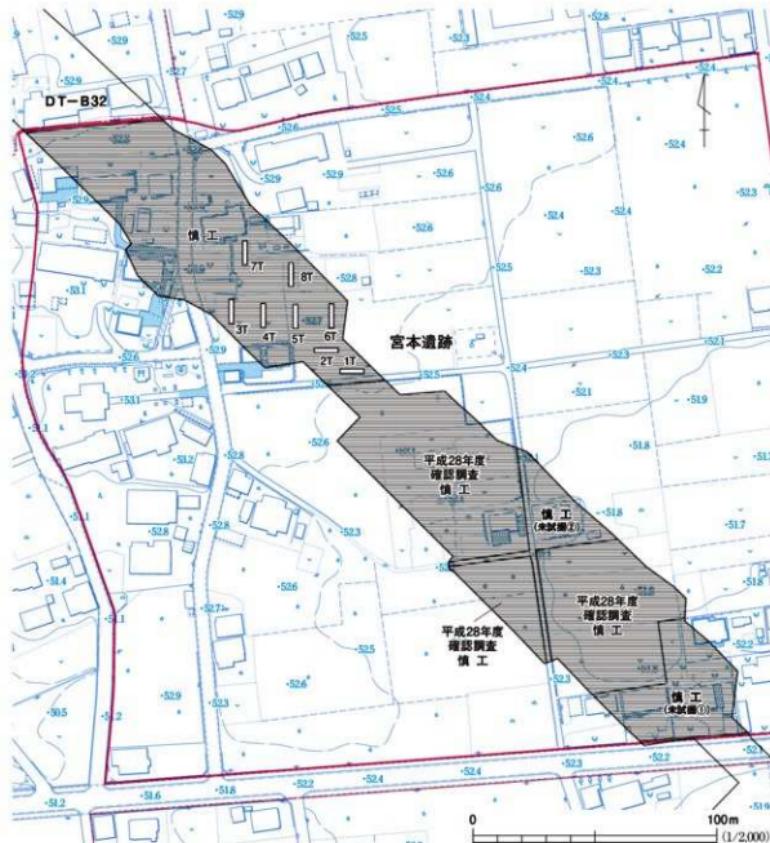


図8 宮本遺跡トレーンチ配置図

DT-B32

所 在 地 伊達市伏黒字館ノ内

調査対象面積 5,300m²

保 存 面 積 0m²

検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 なし

[概 要] DT-B32は、平成24年度の分布調査において、新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。その後、平成29年度に工区内の1,800m²を対象に試掘調査を実施した結果、保存対象範囲は確認できなかった(『福島県内遺跡分布調査報告25』)。阿武隈川の旧河道に沿って形成された自然堤防上に立地し、現況は畠地・水田・宅地である。

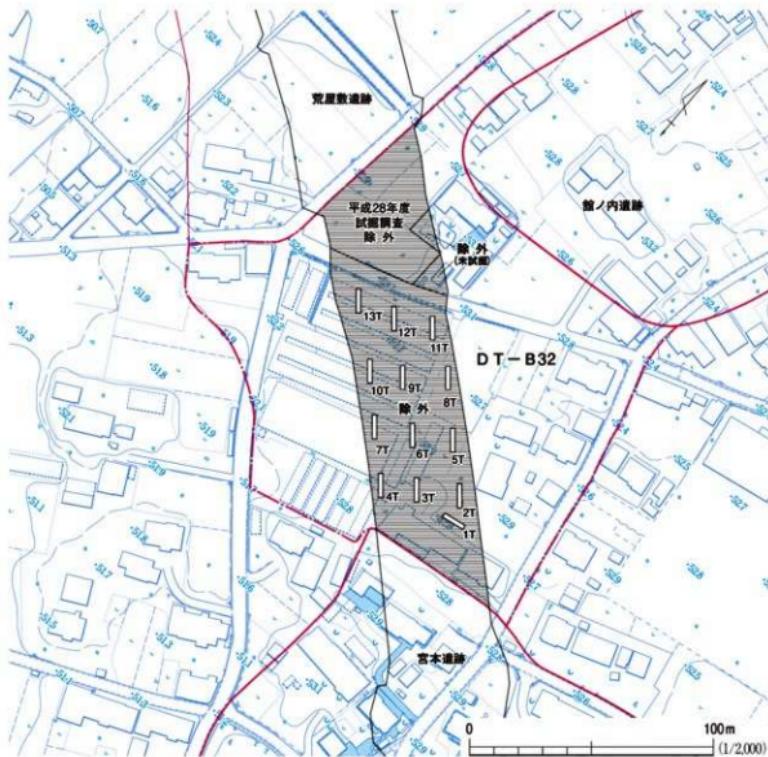


図9 DT-B32トレーニング配置図

本年度の試掘調査は、工区内の5,300m²を対象に、トレーニング13本を設定して行った。

[まとめ] 遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は周知の埋蔵文化財包蔵地として扱わない。また、今回の調査をもってDT-B32の建設予定地内のすべての試掘調査は終了した。

第2節 主要地方道いわき上三坂小野線（小名浜道路）建設予定地

主要地方道いわき上三坂小野線（小名浜道路）は、重要港湾小名浜港と常磐自動車道を全長8.3kmの自動車専用道路で結び、広域物流ネットワークの強化によって避難地域の復興を支援するとともに、小名浜港背後の整備事業と連携し、当地域の産業・観光復興の拠点化を支援する、ふくしま復興再生道路として整備されることとなった。現在、福島県土木部いわき建設事務所が事業を進めている。本事業に係る分布調査は平成25年度に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所と新規の埋蔵文化財包蔵推定地13箇所を確認した（『福島県内遺跡分布調査報告21』）。その後、平成27年度に周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所、平成29年度に周知の

埋蔵文化財包蔵地1箇所と新規の埋蔵文化財包蔵推定地1箇所の試掘・確認調査を実施した(『福島県内遺跡分布調査報告23・25』)。その結果、保存対象箇所は確認できなかった。本年度は、いわき市添野地区における埋蔵文化財包蔵地・埋蔵文化財包蔵推定地、計2箇所で試掘・確認調査を実施した。

1 いわき市の遺跡

泉大平遺跡

所 在 地 いわき市泉町大平・一町田、添野町長沢

調査対象面積 3,200m²

保 存 面 積 0m²

検出遺構 なし

出 土 遺 物 なし



図10 主要地方道いわき上三坂線（小名浜道路位置図）



図11 いわき市の遺跡

[概 要] 泉大平遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地である。丘陵に立地し、現況は山林である。

本年度の確認調査は、工区内の3.200m²を対象に、トレンチ5本を設定して行った。

[ま と め] 確認調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。また、今回の調査をもって、泉大平遺跡の建設予定地内のすべての確認調査は終了した。

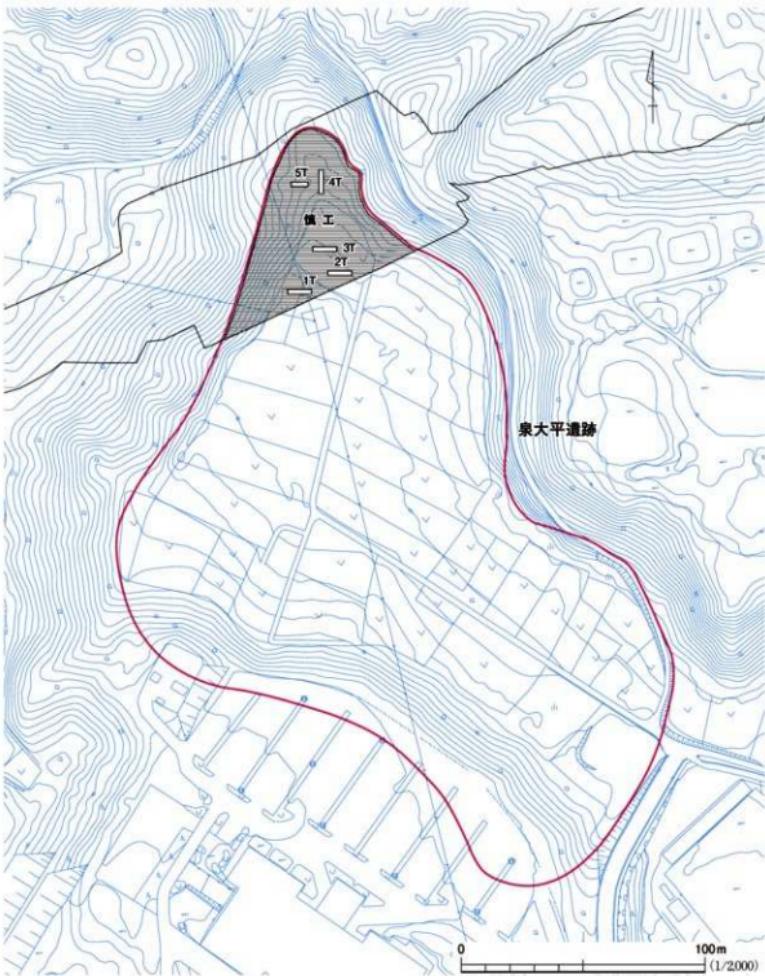


図12 泉大平遺跡トレンチ配図

I WK-B1

所 在 地 いわき市添野町頭巾平

調査対象面積 5,800m²

保 存 面 積 0m²

検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 なし

【概 要】 I WK-B1は、平成25年度の分布調査で新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。丘陵平坦面に立地し、現況は畑地・山林である。

本年度の試掘調査は、工区内の5,800m²を対象に、トレンチ9本を設定して行った。

【ま と め】 試掘調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は、遺跡として扱わない。

また、今回の調査をもって、I WK-B1の建設予定地内のすべての試掘調査は終了した。

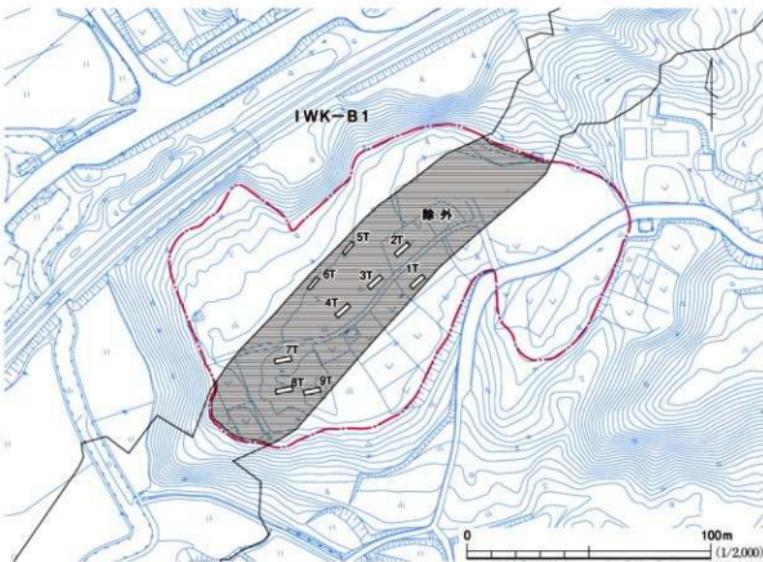


図13 I WK-B1 トレンチ配置図

第3節 国道349号改良工事(下関工区)建設予定地

国道349号改良工事は、矢祭町大塙地区から塙町に至る東白川郡の主要交通路の確保を目的に計画され、現在、福島県土木部県南建設事務所が事業を進めている。埋蔵文化財に関する調査は、平成14年度から矢祭町教育委員会が継続的に実施してきたが、平成29年度より、これを引き継ぐ形で福島県教育委員会が下関工区に係る試掘・確認調査を実施している。



図14 矢祭町の遺跡

本年度は、矢祭町下関河内地区における遺跡2箇所で確認調査を実施した。

1 矢祭町の遺跡

下町遺跡（第2次調査）

所 在 地 矢祭町大字下関河内字下町

調査対象面積 3,600m²

保 存 面 積 0 m²

検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 なし

[概 要] 下町遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地である。平成29年度に工区内の2,300m²を対象に確認調査を実施した結果、保存対象範囲は確認できなかった（『福島県内遺跡分布調査報告25』）。久慈川支流の小田川に面した低位段丘面に立地し、現況は畠地である。

本年度の確認調査は、工区内の3,600m²を対象に、トレンチ5本を設定して行った。

[ま と め] 確認調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、本年度の調査範囲は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。また、今回の調査をもって、下町遺跡の建設予定地内のすべての確認調査は終了した。

下古宿遺跡

所 在 地 矢祭町大字下関河内字下古宿

調査対象面積 3,000m²

保 存 面 積 0 m²

検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 なし

[概 要] 下古宿遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地である。久慈川支流の小田川に面した低位段丘面に立地し、現況は畠地である。本年度の確認調査は、工区内の3,000m²を対象にトレンチ5本を設定して行った。

[ま と め] 確認調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、本年度の調査範囲は、保存対象

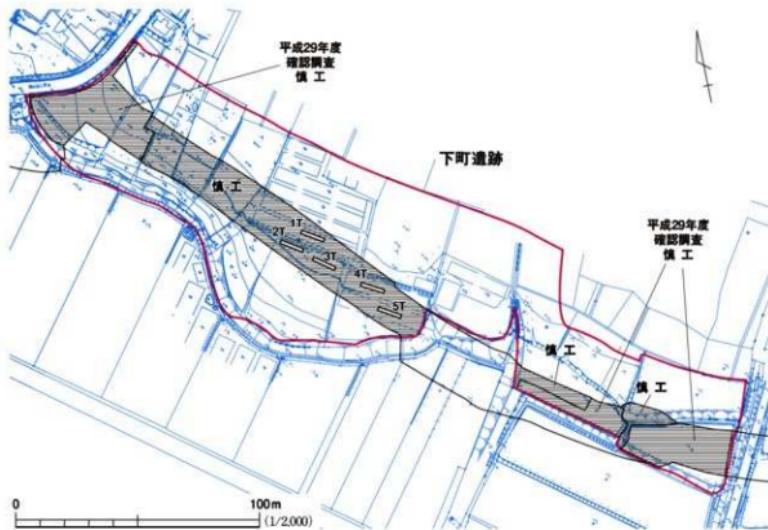


図15 下町遺跡トレンチ配置図

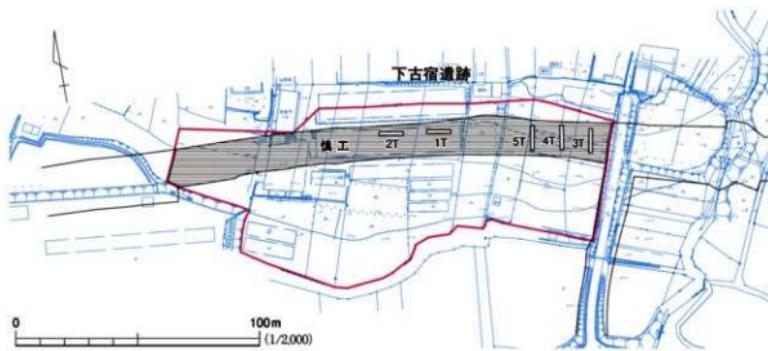


図16 下古宿遺跡トレンチ配置図

外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。また、今回の調査をもって、下古宿遺跡の建設予定地内のすべての試掘調査は終了した。

第4節 阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)建設予定地

阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)は、平成23年9月13日の豪雨で甚大な洪水被害を受けた郡山市御代田地区を対象に、家屋などへの被害が生じる無堤箇所や堤防幅・強度の不足箇所において河道の目標流

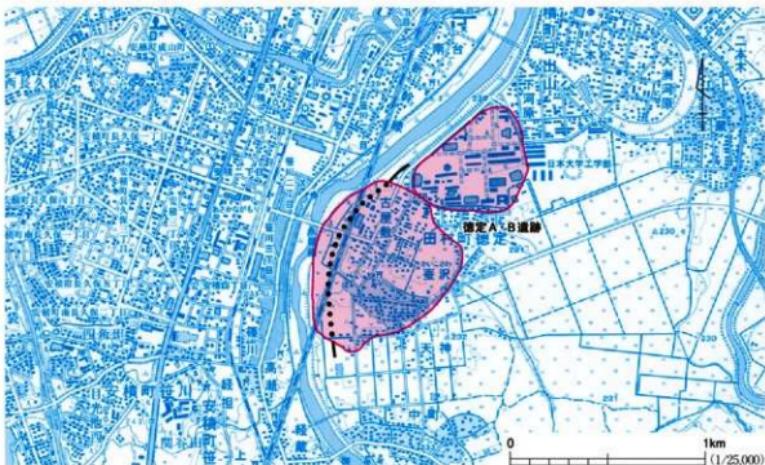


図17 郡山市の遺跡

量を安全に流下させるために、堤防の整備を実施するものである。

現在、国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所が事業を進めている。対象となる埋蔵文化財は、郡山市における遺跡1箇所で、平成29年度より確認調査を開始した。本年度は、その第2次調査にあたる。

1 郡山市の遺跡

徳定A・B遺跡（第2次調査）

所 在 地 郡山市田村町徳定字大柳

調査対象面積 2,000m²

保 存 面 積 0m²

検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 なし

[概 要] 徳定A・B遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地である。昭和47・50・51年度に、福島県教育委員会が東北新幹線建設に伴う大規模な発掘調査を実施し（「東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅲ」）、平成17年度以降は、郡山市教育委員会が徳定地区土地区画整理事業に伴う確認調査及び発掘調査を継続的に実施している（「徳定A・B遺跡－第1・2次発掘調査報告－」ほか）。その結果、古墳時代～平安時代を中心とした、福島県を代表する集落跡に位置づけられている。本事業に係る確認調査は、平成29年度に工区内の4,900m²を対象に実施した結果、保存対象範囲は確認できなかった。

阿武隈川右岸の自然堤防上に立地し、現況は畠地・荒地・宅地である。

本年度の確認調査は、工区内の2,000m²を対象に、トレンチ6本を設定して行った

[ま と め] 確認調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、本年度の調査範囲は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

なお、本遺跡では7,400m²の未試掘範囲がある。

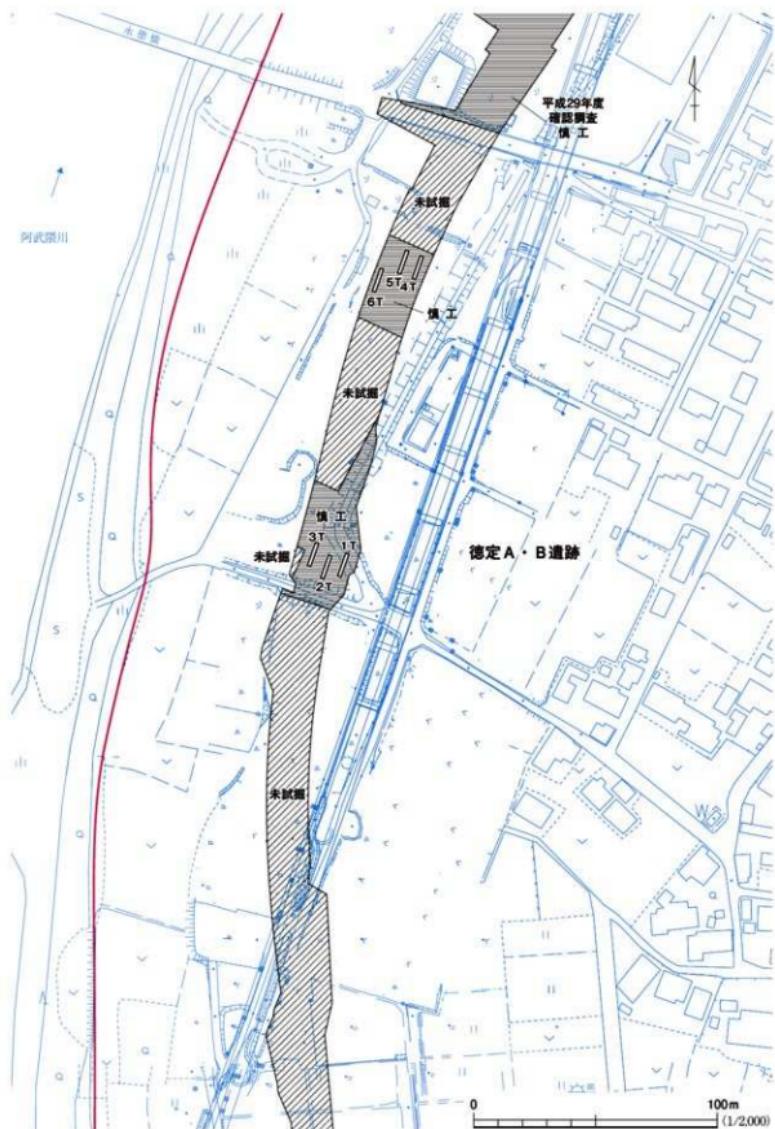


図18 徳定A・B遺跡トレンチ配置図

第3章 分布調査

第1節 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)建設予定地

只見川河川整備事業は、平成23年7月27～30日の新潟・福島豪雨で甚大な洪水被害を受けた流域5町(会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、只見町)の計24地区を対象に、新たな堤防の整備や川幅の拡幅を実施するものである。

現在、福島県土木部会津若松建設事務所が会津坂下町～金山町の20地区、福島県土木部南会津建設事務所が只見町の4地区の事業を進めている。

平成30年度は、埋蔵文化財に係る調査の初年度であり、会津坂下町片門地区～金山町滝沢地区的分布調査を行った。その結果、遺物は採取できなかったものの、表7-1・2に示した周知の埋蔵文化財包蔵地9箇所及び、周知の埋蔵文化財包蔵地と隣接し、地形的に連続する埋蔵文化財包蔵推定地11箇所を確認した。

なお、今回提示した周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地については、今後の工事計画の変

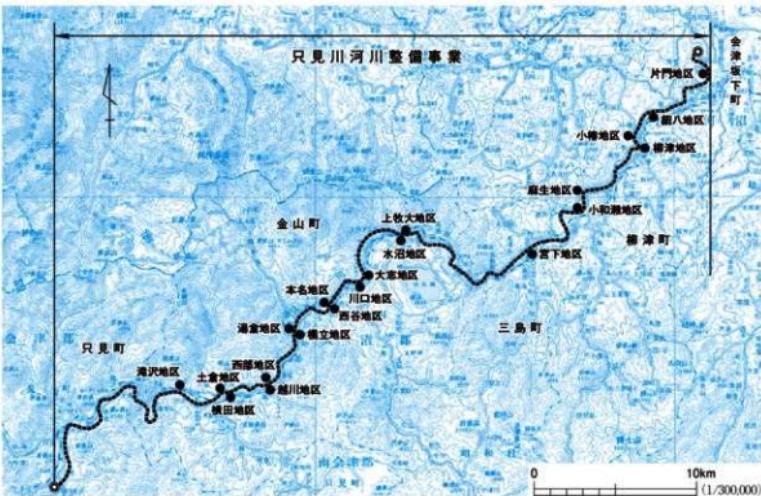


図19 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区位置図)

表7-1 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)関連遺跡一覧

No	遺跡名	遺跡番号	所在地	現況	時代	採取遺物	工区内面積(m ²)	備考
1	西走遺跡	42100011	会津坂下町片門字南	宅地・畠地	縄文			
2	AB-B 1		会津坂下町片門字南	水田・畠地				新発見の道路推定地
3	AB-B 2		会津坂下町片門字片門	水田・畠地				新発見の道路推定地
4	片門船跡	42100156	会津坂下町片門字舟渡ノ内	宅地・畠地	中世			
5	AB-B 3		会津坂下町高寺字舟渡	宅地・畠地				新発見の道路推定地

更などにより、変動する可能性がある。

また、貝見町の4地区は、次年度以降に分布調査を実施する予定である。

表7-2 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）関連遺跡一覧

No.	道路名	遺跡番号	所 在 地	現 態	時 代	採取遺物	工区内 面積(m ²)	備 考
6	舟渡城跡	42100014	会津坂下町高寺字和尚堂	宅地・山林	中世			
7	下中沢遺跡	42300005	柳津町堀八字下中沢	畠地・山林	縄文			
8	Y Z - B 1		柳津町堀八字根柄巻乙	畠地・水田				新発見の道路推定地
9	麻生船跡	42300020	柳津町魚谷字麻生居平	山林	中世			
10	Y Z - B 2		柳津町魚谷字麻生居平	宅地・畠地				新発見の道路推定地
11	M S - B 1		三島町松原字小和瀬	畠地				新発見の道路推定地
12	小和瀬遺跡	44000004	三島町松原字小和瀬	宅地・畠地	縄文			
13	K Y - B 1		金山町西谷字下夕川原・沖田	宅地・畠地				新発見の道路推定地
14	K Y - B 2		金山町本名字船渡	宅地・畠地				新発見の道路推定地
15	船場遺跡	44500015	金山町越川字大川	畠地・山林	縄文			
16	K Y - B 3		金山町横田字西部	宅地・畠地				新発見の道路推定地
17	高根沢船跡	44500029	金山町横田字高根沢・字西部	畠地・山林	中世			
18	K Y - B 4		金山町横田字高根沢	畠地				新発見の道路推定地
19	中丸城跡	44500023	金山町横田要害山	畠地・山林	中世		25,000	
20	K Y - B 5		金山町滝沢字蓬田・三十石	畠地・水田				新発見の道路推定地



3 洲走遺跡・A B - B 1全景（南から）



4 片門館跡・A B - B 2全景（北東から）



5 片門館跡全景（南から）



6 舟渡城跡・A B - B 3全景（南から）

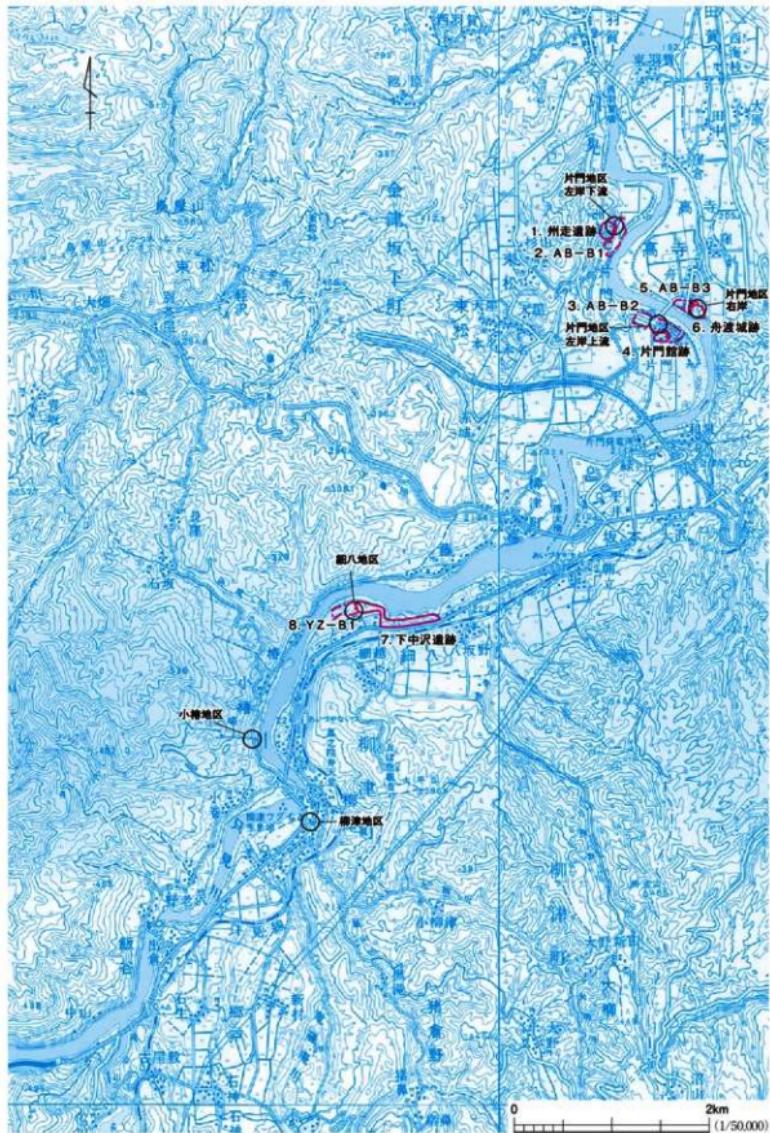


図20 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)予定工区と遺跡・遺跡推定地（1）

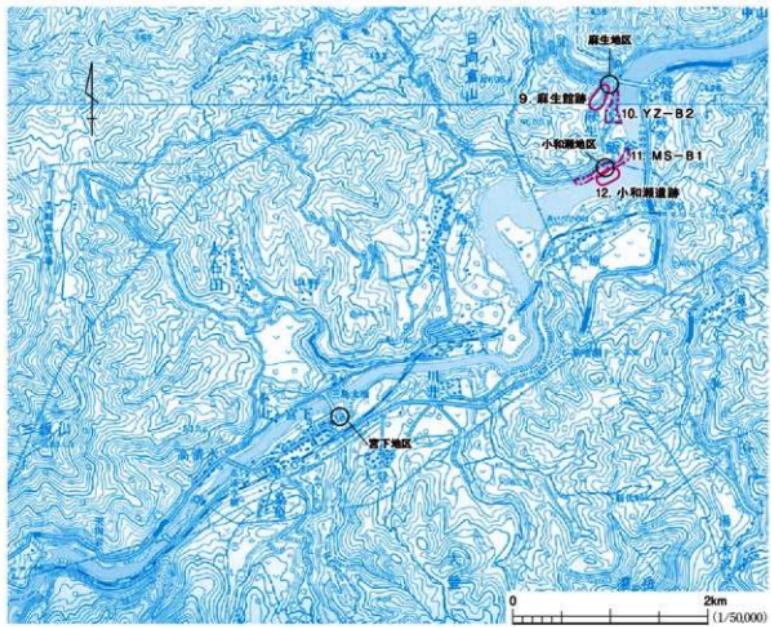


図21 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）予定工区と遺跡・遺跡推定地（2）

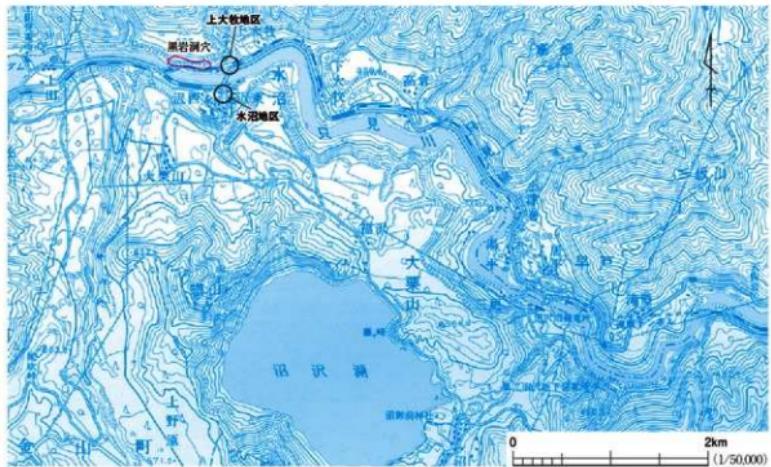


図22 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）予定工区と遺跡・遺跡推定地（3）

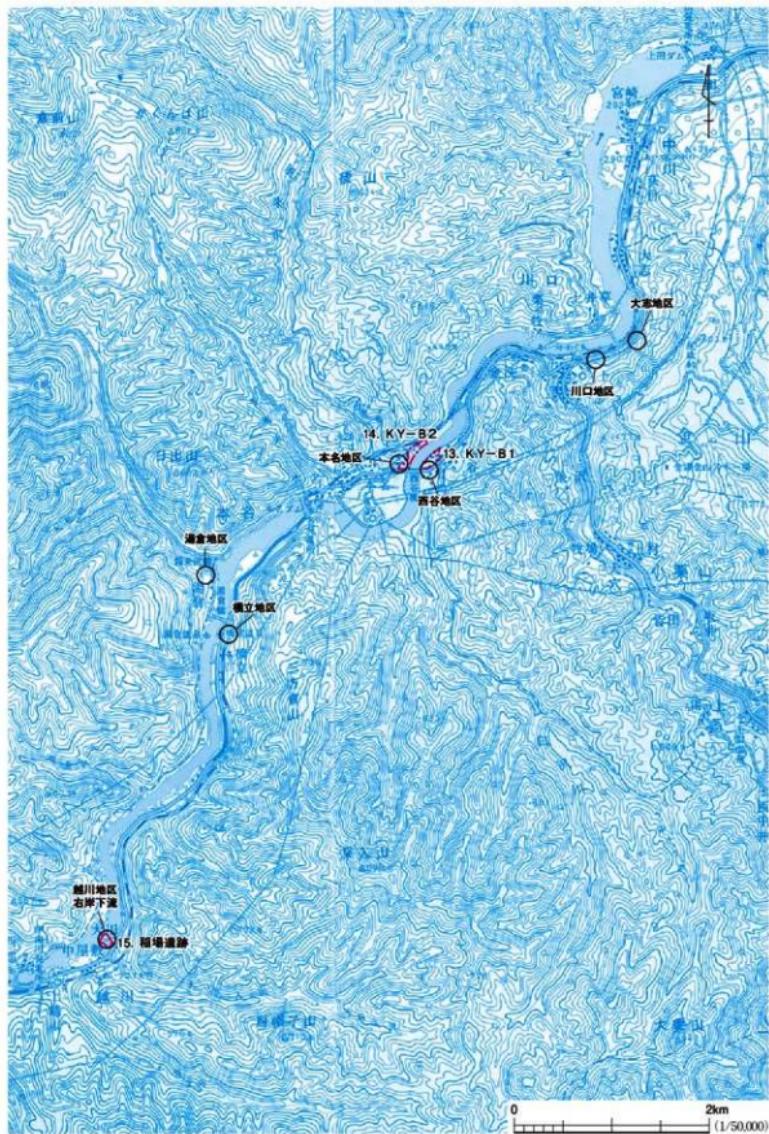


図23 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)予定工区と遺跡・遺跡推定地 (4)



図24 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）予定工区と遺跡・遺跡推定地（5）



7 舟渡城跡全景（南西から）



8 下中沢遺跡・YZ-B1全景（西から）



9 麻生館跡・YZ-B2全景（南西から）



10 麻生館跡全景（南から）



11 YZ-B 2近景（南から）



12 小和瀬遺跡・MS-B 1全景（北から）



13 KY-B 1全景（南西から）



14 KY-B 1全景（北から）



15 KY-B 2全景（南から）



16 KY-B 2全景（北東から）



17 高根沢館跡・KY-B 3全景（南西から）



18 高根沢館跡案内板：西部地区（南から）



19 KY-B3全景（南から）



20 高根沢館跡・KY-B4全景（南西から）



21 高根沢館跡・KY-B4全景（西から）



22 中丸城跡頂部遠景（西から）



23 中丸城跡東部遠景（南から）



24 中丸城跡：山内氏勝墓碑（北から）



25 中丸城跡案内板（北から）



26 KY-B5全景（西から）

第4章 総 括

平成30年度は、試掘・確認調査を4事業(3市1町)の計9箇所の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地で実施した。分布調査は1事業(4町)の計1箇所で実施した。これらの調査は、平成30年5月下旬から11月上旬の期間で行った。試掘・確認調査の結果、計2箇所で保存を要する範囲が確定した。

なお、保存を要する範囲が確定した2箇所の埋蔵文化財包蔵地は、本年度に発掘調査を実施し、記録保存を終えている。以下、各事業の平成30年度の試掘・確認調査成果を表15～表19にまとめたが、提示した調査対象面積、保存面積、未発掘面積などは、今後の工事計画の変更により、変動する可能性がある。

1 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

相馬市から伊達市を経由し、桑折町に至る高規格幹線道路の相馬福島道路は、これまで相馬西道路・阿武隈東道路・阿武隈東～阿武隈・靈山道路・靈山～福島の5区間に分かれて事業が進められてきた。このうち、相馬西道路・阿武隈東道路・阿武隈東～阿武隈・靈山道路では、試掘・確認調査はすべて終了し、靈山～福島では、桑折町地内の試掘・確認調査が終了している。

平成30年度の調査は、伊達市地内の4箇所を対象に実施した。

[伊達市] 同市地内の靈山～福島に係る試掘・確認調査は、計19箇所の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地を対象として、平成26年度から実施し、14箇所について終了している(『福島県内遺跡分布調査報告22・23・24・25』)。平成30年度は、DT-B29[田向遺跡]、中室内遺跡、宮本遺跡、DT-B32の4箇所で実施した。その結果、保存を要する範囲が確定したのは、DT-B29[田向遺跡](4,100m²)、中室内遺跡(1,000m²)の2箇所であり、保存面積の合計は、5,100m²である。また、確認調査は行わなかったが、荒屋敷遺跡は周辺成果から未試掘部分(300m²)を慎重工事と判断したため、本年度でDT-B29[田向遺跡]、中室内遺跡、宮本遺跡、DT-B32の試掘・確認調査を終了した。

以上により、平成14年度から開始した本事業に係る埋蔵文化財の試掘・確認調査は、すべて終了した。

2 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地

主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)は、いわき市小名浜清と常磐自動車道を結ぶ全長8.3kmの自動車専用道路である。本事業に係る分布調査は平成25年度に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所と新規の埋蔵文化財包蔵推定地13箇所を確認した(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。その後、試掘・確認調査は、平成27年度に江畑館跡の1箇所、平成29年度に江畑町堀ノ内館跡、IWK-B10の2箇所で実施したが、保存を要する範囲はなかった(『福島県内遺跡分布調査報告23・25』)。

[いわき市] 同市地内の小名浜道路に係る試掘・確認調査は、泉大平遺跡、IWK-B1の2箇所で実施した。その結果、保存を要する箇所はなかった。また、試掘調査は行わなかったものの、現地協議によりIWK-B11は除外とし、本年度で泉大平遺跡、IWK-B1、IWK-B11の試掘・確認調査を終了した。

以上により、いわき市地内の小名浜道路で平成30年度以降、試掘・確認調査の対象となる遺跡及び遺跡推定地は、計6箇所で、試掘・確認調査が必要な未試掘面積の合計は17,500m²である。

表8 相馬福島道路（靈山～福島）関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧（伊達市・桑折町）

No	遺跡名	試掘調査 終了	跡工区内 面積(m ²)	年度別調査対象面積			未試掘 面積(m ²)	保存 面積(m ²)	備 考
				年度	面積(m ²)	報告書			
【伊達市】									
1	D T-B 23	●	400	H 28	400	『県内分24』	0	0	
				H 27	14,200	『県内分23』		11,900	H 27 保存3,700m ² の内、400m ² はD T-B 34[上ノ台]に含める
2	上ノ台船跡	●	27,900	(測量)	9,400	『県内分23』	0	3,700	H 28 (3,700m ²)、H 29 (1,500m ²)、H 30 (5,400m ²) 300 本発掘調査実施。
				H 27	4,300	『県内分24』			
3	D T-B 34 [上ノ台]	●	2,300	H 27	1,900	『県内分23』	0	600	H 27 保存600m ² の内、100m ² は上ノ台船跡に加え、残る500m ² は上ノ台道路として新規登録 これに上記400m ² を加え、保存900m ² とする 0 H 27 (900m ²)本発掘調査実施。
4	D T-B 24	●	5,600	H 29	5,600	『県内分25』	0	0	
5	D T-B 25	●	8,900	H 28	8,900	『県内分24』	0	0	
6	D T-B 26	●	18,500	H 27	18,500	『県内分23』	0	0	
7	D T-B 35	●	2,500	H 27	1,400	『県内分23』	0	0	
				H 29	1,100	『県内分25』			
8	D T-B 36	●	10,700	H 29	10,700	『県内分25』	0	0	
9	D T-B 27	●	4,500	H 29	4,500	『県内分25』	0	0	
10	大上山	●	5,600	H 29	5,600	『県内分25』	0	0	
11	D T-B 28	●	14,200	H 26	6,000	『県内分22』	0	0	
				H 27	7,900	『県内分23』			
12	D T-B 29 [田向遺跡]	●	23,200	H 28	3,900	『県内分24』	0	0	H 29 保存1,300m ² は田向遺跡として新規登録
				H 29	10,300	『県内分25』	1,300	1,300	H 30 保存4,100m ² を田向遺跡に追加、(2500m ²) 4,100 本発掘調査実施。
				H 30	5,450	(5頁)			
13	中室内	●	15,200	H 28	4,800	『県内分24』	0	4,500	H 29 (2,700m ²)本発掘調査実施
				H 29	9,100	『県内分25』	1,000	1,000	H 30 保存1,000m ² 、H 30 (1,100m ²)本発掘調査 実施
				H 30	1,250	(6頁)			
14	D T-B 30	●	26,000	H 28	24,000	『県内分24』	0	0	
15	D T-B 31	●	8,400	H 28	6,000	『県内分24』	0	0	
16	宮本	●	16,100	H 28	7,200	『県内分24』	0	0	
				H 30	6,400	(8頁)			
17	D T-B 32	●	7,100	H 29	1,800	『県内分25』	0	0	
				H 30	5,300	(10頁)			
18	荒屋敷	●	10,700	H 29	10,400	(15頁)	300	3,000	
19	D T-B 33 [荒屋敷]	●	11,600	H 28	6,700	『県内分24』	0	2,400	H 28 荒屋敷遺跡として新規登録
				H 29	2,900	『県内分25』	0	2,800	H 28 荒屋敷遺跡に含める
伊達市 計		19 0 0	219,400	終了	206,300		0	35,600	
				H 30	18,400		5,100	保存30,500m ² の内、17,400m ² 本発掘調査実施	
【桑折町】									
1	桑折台	●	750	H 28	700	『県内分24』	0	0	
2	QR-B 1 [新宿]	●	2,100	H 28	1,550	『県内分24』	0	1,600	H 28 新宿遺跡として新規登録 H 28 工区変更により、1,850m ² 本発掘調査実施
3	QR-B 2 [川原田]	●	18,500	H 27	14,600	『県内分23』	0	3,700	H 27 川原田遺跡として新規登録 H 28 (3,700m ²)本発掘調査実施
4	QR-B 3 [日照田]	●	20,500	H 27	10,800	『県内分23』	0	0	H 28 日照田遺跡として新規登録 H 29 (2,800m ²)本発掘調査実施
				H 28	8,800	『県内分24』	3,900		
5	QR-B 4 [籠ノ前]	●	20,300	H 27	3,700	『県内分23』	0	0	H 28 篠ノ前遺跡として新規登録 H 29 (1,600m ²)本発掘調査実施
				H 28	6,200	『県内分24』	3,600		
				H 29	6,000	(20頁)	0		
桑折町 計		5 0 0	62,150	終了	55,950		0	12,800	
				H 30	9,600		0	保存12,800m ² の内、9,950m ² 本発掘調査実施	
伊達市・桑折町 合計		24 0 0	281,550	終了	262,250		0	48,400	
				H 30	18,400		5,100		

〔表15～19用例〕『県内分＊』→『福島県内道路分布調査報告書＊』、(＊頁)→本報告書掲載ページ、終→終了、継→調査継続中、未→未着手。

※ 試掘対象面積・未試掘面積などは、工事計画などにより変更される場合がある。

表9 主要地方道いわき上三坂小野線（小名浜道路）関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧（いわき市）

No	道路名	試掘調査 終了未	道路工区内 面積(m ²)	年度別調査対象面積			未試掘 面積(m ²)	保存 面積(m ²)	備考
				年度	面積(m ²)	報告書			
1	泉大平	●	3,200	H 30	3,200	(12頁)	0	0	H 30工事計画の変更により、工区内面積増加
2	IWK-B1	●	5,800	H 30	5,800	(14頁)	0	0	H 30工事計画の変更により、工区内面積増加
3	IWK-B2	●	600	—	—	—	600	—	
4	IWK-B3	●	1,000	—	—	—	1,000	—	
5	IWK-B4	●	1,500	—	—	—	1,500	—	
6	IWK-B5	●	2,000	—	—	—	2,000	—	
7	IWK-B6	●	1,100	—	—	—	1,100	—	
8	江畑町 堀之内船跡	●	10,100	H 29	10,100	〔県内分25〕	0	0	H 29工事計画の変更により、工区内面積増加
9	江畑船跡	●	10,000	H 27	10,000	〔県内分24〕	0	0	
10	IWK-B10	●	2,600	H 29	2,600	〔県内分25〕	0	0	H 29工事計画の変更により、工区内面積増加
11	IWK-B11	●	400	—	—	—	0	0	H 30現地協議により、試掘対象外
12	IWK-B13	●	11,300	—	—	—	11,300	—	H 30工事計画の変更により、工区内面積増加
いわき市 計		7 0 5	49,600	終了	31,700		17,500	0	
				H 30	9,000			0	

3 国道349号改良工事（下関工区）建設予定地

矢祭町大塙地区から塙町に至る区間で計画されている国道349号改良工事は、平成24年度から矢祭町教育委員会が埋蔵文化財に関する調査を進め、平成29年度に福島県教育委員会がこれを引き次ぐ形で、下関工区の宮平遺跡、下町遺跡、田中前遺跡を対象に確認調査を実施した。その結果、宮平遺跡では保存面積(2,300m²)が確定した（『福島県内遺跡分布調査報告25』）。

[矢 祭 町] 本年度の国道349号改良工事に係る試掘・確認調査は、下町遺跡、下古宿遺跡の2箇所で実施した。

その結果、保存対象箇所は確認できず、本年度で2遺跡の確認調査は終了した。

以上により、矢祭町地内の国道349号改良工事（下関工区）で平成30年度以降、試掘・確認調査の対象となる遺跡は、計1箇所で、試掘・確認調査が必要な未試掘面積は1,100m²である。

表10 国道349号改良工事（下関地区）関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧（矢祭町）

No	道路名	試掘調査 終了未	道路工区内 面積(m ²)	年度別調査対象面積			未試掘 面積(m ²)	保存 面積(m ²)	備考
				年度	面積(m ²)	報告書			
1	宮平	●	3,500	H 29	2,400	〔県内分25〕	1,100	2,300	保存(2,300m ²)は、H 28矢祭町調査成果を含む H 30(2,300m ²)本発掘調査実施
2	下町	●	5,900	H 29	2,300	〔県内分25〕	0	0	
3	下古宿	●	3,000	H 30	3,000	(15頁)	0	0	
4	田中前	●	3,600	H 29	3,600	〔県内分25〕	0	0	
矢祭町 計		3 1 0	16,000	終了	8,300		1,100	2,300	保存2,300m ² のうち、0m ² 本発掘調査終了
				H 30	6,600			0	

4 阿武隈川上流河川改修事業（御代田地区）建設予定地

阿武隈川上流河川改修事業（御代田地区）は、郡山市御代田地区に整備される全長15kmの堤防である。本事業に係るのは、周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所である。試掘・確認調査は平成29年度より開始した。

[郡 山 市] 同市地内の阿武隈川上流河川改修事業（御代田地区）に係る試掘・確認調査は、徳定A・B遺跡の下流工区内を対象に実施した。その結果、保存を要する範囲はなかった。

以上により、郡山市地内の阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)で平成30年度以降、試掘・確認調査が必要な未試掘面積の合計は9,400m²である。

表11 阿武隈川上流河川改修事業（御代田地区）開連試掘・確認調査対象面積成果一覧（郡山市）

No.	遺跡名	試掘調査		遺跡工区内		年度別調査対象面積		未試掘面積(m ²)	保存面積(m ²)	備考
		終了	未	面積(m ²)	年度	面積(m ²)	報告書			
1	他定A・B	●		14,300	H29 H30	4,900 2,000	『県内分25』 (17頁)	7,400	0	
郡山市 計		0	1	0	終了	4,900		9,400	0	
					H30	4,900			0	

5 埋蔵文化財包蔵地の変更

本報告における分布調査及び試掘・確認調査の結果、1件の埋蔵文化財包蔵地を新規に登録した。今後は以下の内容に基づいて埋蔵文化財を保護を行う。

[伊達市]

田向遺跡(伊達市保原町上保原田向)

相馬福島道路建設予定地内で、埋蔵文化財包蔵推定地D T - B 29の試掘調査を実施したところ、周知の田向遺跡と隣接する箇所で柱穴や溝跡など、埋蔵文化財の存在を確認したため、当該地を含める形で田向遺跡の範囲を変更した。変更後の登録面積は5,400m²である。

表12 埋蔵文化財包蔵地（変更）一覧

古町村 遺跡 コード	遺跡名	所在地	登録類型	種別	時代	面積	備考
07213 00661 田向遺跡	伊達市保原町上保原字田向	変更	散布地	中古世	5,400m ²	D T-B29 の一部を田向遺跡として追加登録	



図25 田向遺跡の範囲

報告書抄録

ふりがな	ふくしまけんないせきぶんぶちょうさほうこく26						
書名	福島県内遺跡分布調査報告書26						
シリーズ名	福島県文化財調査報告書						
シリーズ番号	第535集						
編著者名	福島県教育庁文化財課(編集) : 阿部智彦 公益財団法人福島県文化振興財団 : 普原祥夫 渡造春喜						
編集機関	福島県教育委員会 〒960-8688 福島県福島市杉妻町2-16 TEL 024-521-1111						
発行機関	福島県教育委員会 〒960-8688 福島県福島市杉妻町2-16 TEL 024-521-1111						
発行年月日	2019年9月27日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯 ^{*1} 度分分秒	東經 ^{*1} 度分分秒	発掘期間	発掘面積 ^{*2} m ²	発掘原因
D T - B 29 〔田向〕	福島県伊達市保原町上南原字田 向内	07213 なし	37° 48' 45"	140° 32' 7"	20180523～20180524	235.0	試掘調査
中野内	福島県伊達市保原町上南原字中 野内	07213 00329	37° 48' 51"	140° 32' 0"	20180528	104.5	確認調査
宮本	福島県伊達市保原字宮本	07213 00030	37° 49' 16"	140° 31' 28"	20180529～20180530	120.0	確認調査
D T - B 32	福島県伊達市保原字大平、 一町田、添野町長沢	07213 なし	37° 49' 29"	140° 32' 16"	20180531～20180605	292.0	試掘調査
東大平	福島県いわき市東大平原字大平、 一町田、添野町長沢	07204 なし	36° 56' 41"	140° 49' 42"	20180702～20180703	84.5	確認調査
I WK - B 1	福島県いわき市沼野町野原字平	07204 なし	36° 56' 34"	140° 49' 17"	20180704～20180706	116.0	試掘調査
下町	福島県東白川郡磐梯祭原町大字下町 内字内	07482 00057	36° 50' 24"	140° 26' 18"	20180723～20180724	75.0	確認調査
下吉留	福島県東白川郡磐梯祭原町大字下町 内字下吉留	07482 00071	36° 50' 17"	140° 26' 37"	20180725～20180726	75.0	確認調査
越足A・B	福島県郡山市田町	07203 00562	37° 21' 23"	140° 21' 25"	20170823～20170831	78.0	確認調査
特記事項	相馬福島道路建設予定地(伊達市)のD T - B 29[田向遺跡]で試掘調査を実施したところ、溝跡、土坑、小穴を確認したため、建設予定地内の4,100m ² を保存を要する範囲とした。 また、同予定地内(伊達市)の中野内遺跡の確認調査でも溝跡、土坑、小穴を確認したため、建設予定地内の1,000m ² を保存を要する範囲とした。						
要項	福島県教育委員会が平成30年度に実施した、相馬福島道路・小名浜道路・国道349号改良工事・阿武隈川上流河川改修事業建設予定地内の昭知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地を対象とする試掘・確認調査、並びに只見川河川整備事業における埋蔵文化財の分布調査の報告書である。 36,000m ² を対象とした試掘・確認調査の結果、昭知の埋蔵文化財包蔵地1箇所、埋蔵文化財包蔵推定地1箇所の合計面積5,100m ² について保存が必要と判断した(表1～4参照)。また、1件の埋蔵文化財包蔵地の範囲を変更した(表12参照)。						

*1 緯度度数値は世界地図系(平成14年4月1日から適用)による。 *2 ドレンチ面積を示す。

福島県文化財調査報告書第535集

福島県内遺跡分布調査報告 26

令和元年9月27日発行

編集・発行 福島県教育委員会

■960-8688 福島市杉妻町2-16

印 刷 株 式 会 社 山 川 印 刷 所

■960-2153 福島市庄野字清水尻1-10